

事務事業評価表（令和2年度の実績評価）

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その1）

（１）事務事業の概要

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

(3) 投入量（事業費）の推移				01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)			期間限定 総投入量
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0		0
			県支出金	千円	0	0	0		0
			地方債	千円	0	0	0		0
			使用料・手数料	千円	0	0	0		0
			その他	千円	0	0	0		0
			一般財源	千円	1,229	2,966	2,700		0
		事業費計（A）	千円	1,229	2,966	2,700		0	
		正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人			

02年度事業費 実績（千円）				03年度事業費 予算（千円）			
18 負担金補助及び交付金	2,966			18 負担金補助及び交付金	2,700		
		合 計	2,966			合 計	2,700

事務事業名	農業基盤改修助成事業	事務事業No.	40102000847	所属課	農林課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
昭和35年に、土地改良事業補助金交付規程が施行され、受益者が使用する公共財産の維持管理を自ら行い、その経費の一部について補助することを目的として開始された。本事業は、旧岩瀬町のみで実施されていた事業で、合併後桜川市に引き継がれた。平成26年度には桜川市土地改良事業補助金交付規程を全部改正し、主に補助金交付の手続きについて明確化した。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
補助を受けている団体からは感謝の声があがっている。一方、年度によって予算の都合により申請を受けられないものもあったことに対し、「補正等で対応して欲しい」という意見もあった。地区によっては「100%補助して欲しい」等の意見もあがっている。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	☒ 結びついている 自主的な修繕を行う事で、施設としての機能が正常に保たれ（適正に管理される）、農山村の振興に結び付つく。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	☒ 妥当である 用排水路等は市の財産である。また、水路等の公共施設は農地に欠かせない施設であるだけでなく、地域周辺の生活又は防災施設当の役割も担っているため、公共の関与が必要だと思われる。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	☒ 向上余地がある 現在、申請のあった全ての団体に助成しているが、申請内容が用水に関連する事業が多い。申請団体等に対し、適切な維持管理について指導していくことで、成果の向上余地が見込める。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	☒ 影響有 管理が不適切なまま放置され、災害や事故が多く発生する事態を招きかねないと思われる。
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む))
	☒ (他に手段がある場合) ☐ 具体的な手段、事務事業名
	☒ 余地がない 農業基盤改修のための事業がない。
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
公平性	☒ 削減余地がない 現状最低限であるためこれ以上削減できない。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
☒ 公正・公平である 補助率を見直したことで、公平性が保たれている。	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒	有効性については見直し余地のあるものの、事業実施者への監督及び指導の機会を増やす必要が生じ、人件費の増加も考えられる。対象施設の老朽化に伴い、申請額の高額化も想定されるので、受益者負担工事との関連性を保ちながら、バランスのとれた事業推進が求められる。																					
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う ☒ 現状維持		(複数回答可) ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☐ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
					コスト																		
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			
施設の老朽化に伴い申請が増加しているため、申請団体等に施設の適切な維持管理について指導していく。		(6) 事務事業優先度評価結果																					
		成果優先度評価結果 ☒ ⑤																					

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 ☒ A A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 ☐